

履修方法について（博士後期課程）

仏教学専攻（博士後期課程）の履修について

授業の履修方法について

博士後期課程の授業は、スクーリング履修（面接授業）とメディア履修（メディアを利用して行う授業。E-mail等の情報通信技術を利用して授業・論文指導を展開する）を併用する授業で、これを「スクーリング・メディア履修（SI履修）」と称します。履修方法は、スクーリングの受講と、年2回開催する論文中間発表会への出席と最低1回の研究発表が必要となります。そして各在学年の1月末までに「研究報告論文」（400字詰原稿用紙100枚程度）を提出し、この成果により評価されます。

補足: パソコン端末やインターネット接続環境がない場合、メディアを利用して行う授業については、手紙等、郵便による指導を受けることで代えることができます。

授業科目の履修について

必修科目「仏教学研究指導演習Ⅰ」・「仏教学研究指導演習Ⅱ」・「仏教学研究指導演習Ⅲ」の3科目6単位を履修します。

1年次に「仏教学研究指導演習Ⅰ」、2年次に「仏教学研究指導演習Ⅱ」、3年次に「仏教学研究指導演習Ⅲ」と3年間にわたり段階的に履修しなければなりません。

「博士の学位請求論文」の作成について

「博士の学位請求論文」の枚数は、300枚程度（400字詰原稿用紙）を、3年間で作成することを基本としています。以下に年次別のスケジュールを記します。なお、3年間で「博士の学位請求論文」を作成することが諸事情で困難な場合、在学は最長6年間（休学を含まず）可能ですので、各自のおかれている状況に応じて、この期間で「博士の学位請求論文」の作成計画を立てることも必要になります。

●1年次

- (1) 修士課程で習得した学識と成果をもとに、各自が研究テーマを設定して「研究計画書(案)」を作成し、所定の時期（入学手続時に指示）に事務局に提出します。
- (2) 提出された「研究計画書(案)」に基づき指導教員が決定します。
- (3) 「仏教学研究指導演習Ⅰ」のスクーリングを受講し、指導教員の面接指導を受けて、より確かな「研究計画書」を策定します。以降、この計画書に基づいてスクーリングを1月までに全て受講し、指導教員の研究指導を受けます。
- (4) 論文中間発表会が開催されます（年2回）。指導教員の指導を受けて、2回ともに出席し、最低1回、研究成果の発表を行います。この発表会には、指導を担当する教員全員と博士後期課程に在籍する通学課程、通信教育課程の院生全員が出席し、相互に質疑応答を行います。この場で得た批評を再考し、さらなる研究を展開します。
- (5) 1月末までに、1年間の研究成果を「研究報告論文」（400字詰原稿用紙100枚程度）にまとめ、事務局に提出します。
- (6) 「仏教学研究指導演習Ⅰ」のスクーリングの受講と「研究報告論文」により「仏教学研究指導演習Ⅰ」の成績評価が行われ、合格すれば2単位を得ることができ、2年次の「仏教学研究指導演習Ⅱ」の履修に進むことができます。もしも不合格であった場合、2年次に「仏教学研究指導演習Ⅰ」を再履修することになり、1年間の在学延長が確定します。

●2年次

- (1) 1年次に提出した「研究報告論文」をもとに、より新しい考え方やより高度で深慮に富む学識の習得を目指し、引き続き研究指導を受けます。
- (2) 研究の進展に応じて、「仏教学研究指導演習Ⅱ」のスクーリングを1月までに全て受講し、指導教員の面接指導を受けます。以降、指導に基づき研究を進めます。
- (3) 論文中間発表会が開催されます(年2回)。1年次と同様に、指導教員の指導を受けて、2回ともに出席し、最低1回、研究成果の発表を行います。そして発表会で得た批評を再考し、さらなる研究を展開します。
- (4) 1月末までに、2年次の研究成果を「研究報告論文」(400字詰原稿用紙100枚程度)にまとめ、事務局に提出します。
- (5) 「仏教学研究指導演習Ⅱ」のスクーリングの受講と「研究報告論文」により「仏教学研究指導演習Ⅱ」の成績評価が行われ、合格すれば2単位を得ることができ、3年次の「仏教学研究指導演習Ⅲ」の履修に進むことができます。もしも不合格であった場合、3年次に「仏教学研究指導演習Ⅱ」を再履修することになり、1年間の在学延長が確定します。

●3年次

- (1) 1年次および2年次に提出した「研究報告論文」をもとに、引き続き研究指導を受けます。
- (2) 研究の進展に応じて、「仏教学研究指導演習Ⅲ」のスクーリングを全て受講し、指導教員の面接指導を受けます。以降、11月末までに「博士の学位請求論文」(400字詰原稿用紙300枚程度)の提出を目指して、研究を進展させます。
- (3) 論文中間発表会が開催されます(年2回)。9月には、指導教員の指導を受けて研究成果の発表を行います。そして発表会で得た批評を再考し、「博士の学位請求論文」として仕上げていきます。
- (4) 指導教員の承認を得て、11月末までに、「博士の学位請求論文」を事務局に提出し、審査を受けます。
- (5) 1～2月に審査員3名(主査1名・副査2名)の口頭試問による最終審査を受けます。
- (6) 審査員の論文審査の結果報告に基づき、研究科教授会で「博士の学位」授与の可否が審議、判定されます。その結果「可」と判定されれば、課程修了することができます。なお、同時に「仏教学研究指導演習Ⅲ」も合格となり2単位を修得することができます。「否」と判定された場合は、その判定内容をもとに、指導教員のさらなる指導を受けて研究を再開し、翌年度以降「博士の学位請求論文」を再提出し、課程修了を目指すことになります。

●補足

規定のスクーリング(面接指導)以外に、随時、面接指導やE-mail等を利用した指導を受けることができます。

入学から修了までの基本スケジュール

	学生[授業科目の履修]	学生 [「博士の学位請求論文」の作成]	指導教員
		●3月「研究計画書(案)」提出	
1 年次	●指導教員担当の「研究指導演習Ⅰ」 1科目を履修 5月～1月にスクーリングを受講	●6月「研究計画書」提出 ●7月～9月 論文中間発表会 ●11月～12月 論文中間発表会 ●1月「研究報告論文」提出	●研究指導教員の決定 ●研究計画の立案指導 ●研究計画の了承 ● 研究、論文作成指導 ●随時、メディア等を利用して論文作成指導 ●次年度研究計画の指導
2 年次	●指導教員担当の「研究指導演習Ⅱ」 1科目を履修 1月までにスクーリングを受講	●7月～9月 論文中間発表会 ●学会で口頭発表 ●11月 学術雑誌への投稿 ●11月～12月 論文中間発表会 ●1月「研究報告論文」提出	●学会で口頭発表を指導 ●学術雑誌(学会誌を含む)への投稿を指導 ●次年度研究計画の指導 ●「博士の学位請求論文」概要了承
3 年次	●指導教員担当の「研究指導演習Ⅲ」 1科目を履修 「博士の学位請求論文」提出までにスクーリングを受講	●博士論文作成 ●7月～9月 論文中間発表会 ●11月～12月 論文中間発表会 ●11月「博士の学位請求論文」 (400字×300枚程度)提出	●学内外の研究発表の評価および批判に基づき、研究指導 ●「博士の学位請求論文」提出了承 ▼ ● 研究科教授会に審査請求

※上記のスケジュールは基本モデルです。特に2年次においては、学外学会での口頭発表や学術雑誌(学会誌を含む)への投稿等、指導教員の指導を受けつつ積極的な取り組みが望まれます。

(補足)○「博士の学位請求論文」の受理を研究科教授会で決定し、その後、審査員(3名)により審査が開始されます。

○1～2月中旬頃に口頭試問等による最終審査を実施した後、研究科教授会で、審査員の論文審査報告の内容を審議し、「博士の学位」授与の可否を判定します。

歴史学専攻(博士後期課程)の履修について

授業の履修方法について

博士後期課程の授業は、スクーリング履修(面接授業)とメディア履修(メディアを利用して行う授業。E-mail等の情報通信技術を利用して授業・論文指導を展開する)を併用する授業で、これを「スクーリング・メディア履修(SI履修)」と称します。履修方法は、スクーリングの受講と、年2回開催する論文中間発表会への出席と最低1回の研究発表が必要となります。そして各在学年の1月末までに「研究報告論文」(400字詰原稿用紙100枚程度)を提出し、この成果により評価されます。

補足:パソコン端末やインターネット接続環境がない場合、メディアを利用して行う授業については、手紙等、郵便による指導を受けることで代えることができます。

授業科目の履修について

必修科目「歴史学研究指導演習Ⅰ」・「歴史学研究指導演習Ⅱ」・「歴史学研究指導演習Ⅲ」の3科目6単位を履修します。

1年次に「歴史学研究指導演習Ⅰ」、2年次に「歴史学研究指導演習Ⅱ」、3年次に「歴史学研究指導演習Ⅲ」と3年間にわたり段階的に履修しなければなりません。

「博士の学位請求論文」の作成について

「博士の学位請求論文」の枚数は、250枚程度(400字詰原稿用紙)を、3年間で作成することを基本としています。以下に年次別のスケジュールを記します。なお、3年間で「博士の学位請求論文」を作成することは諸事情で困難な場合、在学は最長6年間(休学を含まず)可能ですので、各自のおかれている状況に応じて、この期間で「博士の学位請求論文」の作成計画を立てることも必要になります。

●1年次

- (1) 修士課程で習得した学識と成果をもとに、各自が研究テーマを設定して「研究計画書(案)」を作成し、所定の時期(入学手続時に指示)に事務局に提出します。
- (2) 提出された「研究計画書(案)」に基づき指導教員が決定します。
- (3) 「歴史学研究指導演習Ⅰ」のスクーリングを受講し、指導教員の面接指導を受けて、より確かな「研究計画書」を策定します。以降、この計画書に基づいてスクーリングを1月までに全て受講し、指導教員の研究指導を受けます。
- (4) 論文中間発表会が開催されます(年2回)。指導教員の指導を受けて、2回ともに出席し、最低1回、研究成果の発表を行います。この発表会には、指導を担当する教員全員と博士後期課程に在籍する通学課程、通信教育課程の院生全員が出席し、相互に質疑応答を行います。この場で得た批評を再考し、さらなる研究を展開します。
- (5) 1月末までに、1年間の研究成果を「研究報告論文」(400字詰原稿用紙100枚程度)にまとめ、事務局に提出します。
- (6) 「歴史学研究指導演習Ⅰ」のスクーリングの受講と「研究報告論文」により「歴史学研究指導演習Ⅰ」の成績評価が行われ、合格すれば2単位を得ることができ、2年次の「歴史学研究指導演習Ⅱ」の履修に進むことができます。もしも不合格であった場合、2年次に「歴史学研究指導演習Ⅰ」を再履修することになり、1年間の在学延長が確定します。

●2年次

- (1) 1年次に提出した「研究報告論文」をもとに、より新しい考え方やより高度で深慮に富む学識の習得を目指し、引き続き研究指導を受けます。
- (2) 研究の進展に応じて、「歴史学研究指導演習Ⅱ」のスクーリングを1月までに全て受講し、指導教員の面接指導を受けます。以降、指導に基づき研究を進めます。
- (3) 論文中間発表会が開催されます(年2回)。1年次と同様に、指導教員の指導を受けて、2回ともに出席し、最低1回、研究成果の発表を行います。そして発表会で得た批評を再考し、さらなる研究を展開します。
- (4) 1月末までに、2年次の研究成果を「研究報告論文」(400字詰原稿用紙100枚程度)にまとめ、事務局に提出します。
- (5) 「歴史学研究指導演習Ⅱ」のスクーリングの受講と「研究報告論文」により「歴史学研究指導演習Ⅱ」の成績評価が行われ、合格すれば2単位を得ることができ、3年次の「歴史学研究指導演習Ⅲ」の履修に進むことができます。もしも不合格であった場合、3年次に「歴史学研究指導演習Ⅱ」を再履修することになり、1年間の在学延長が確定します。

●3年次

- (1) 1年次および2年次に提出した「研究報告論文」をもとに、引き続き研究指導を受けます。
- (2) 研究の進展に応じて、「歴史学研究指導演習Ⅲ」のスクーリングを全て受講し、指導教員の面接指導を受けます。以降、11月末までに「博士の学位請求論文」(400字詰原稿用紙250枚程度)の提出を目指して、研究を進展させます。
- (3) 論文中間発表会が開催されます(年2回)。9月には、指導教員の指導を受けて研究成果の発表を行います。そして発表会で得た批評を再考し、「博士の学位請求論文」として仕上げていきます。
- (4) 指導教員の承認を得て、11月末までに、「博士の学位請求論文」を事務局に提出し、審査を受けます。
- (5) 1～2月に審査員3名(主査1名・副査2名)の口頭試問による最終試験を受けます。
- (6) 審査員の論文審査の結果報告に基づき、研究科教授会で「博士の学位」授与の可否が審議、判定されます。その結果「可」と判定されれば、課程修了することができます。なお、同時に「歴史学研究指導演習Ⅲ」も合格となり2単位を修得することができます。「否」と判定された場合は、その判定内容をもとに、指導教員のさらなる指導を受けて研究を再開し、翌年度以降「博士の学位請求論文」を再提出し、課程修了を目指すことになります。

●補足

規定のスクーリング(面接指導)以外に、随時、面接指導やE-mail等を利用した指導を受けることができます。

入学から修了までの基本スケジュール

	学生[授業科目の履修]	学生 [「博士の学位請求論文」の作成]	指導教員
		●3月「研究計画書(案)」提出	
1 年 次	●指導教員担当の「研究指導演習Ⅰ」 1科目を履修 5月～1月にスクーリングを受講	●6月「研究計画書」提出 ●7～9月 論文中間発表会 ●12月 論文中間発表会 ●1月「研究報告論文」提出	●研究指導教員の決定 ●研究計画の立案指導 ●研究計画の了承 ●研究、論文作成指導 ●随時、メディア等を利用して論文 作成指導 ●次年度研究計画の指導
2 年 次	●指導教員担当の「研究指導演習Ⅱ」 1科目を履修 1月までにスクーリングを受講	●7～9月 論文中間発表会 ●学会で口頭発表 ●11月 学術雑誌への投稿 ●12月 論文中間発表会 ●1月「研究報告論文」提出	●学会で口頭発表を指導 ●学術雑誌(学会誌を含む)への 投稿を指導 ●次年度研究計画の指導 ●「博士の学位請求論文」概要了承
3 年 次	●指導教員担当の「研究指導演習Ⅲ」 1科目を履修 「博士の学位請求論文」提出までに スクーリングを受講	●博士論文作成 ●9月 論文中間発表会 ●11月「博士の学位請求論文」 (400字×250枚程度)提出 ●12月 論文中間発表会	●学内外の研究発表の評価および 批判に基づき、研究指導 ●「博士の学位請求論文」提出了承 ●研究科教授会に審査請求

※上記のスケジュールは基本モデルです。特に2年次においては、学外学会での口頭発表や学術雑誌(学会誌を含む)への投稿等、指導教員の指導を受けつつ積極的な取り組みが望まれます。

(補足)○「博士の学位請求論文」の受理を研究科教授会で決定し、その後、審査員(3名)により審査が開始されます。

○1～2月中旬頃に口頭試問等による最終試験を実施した後、研究科教授会で、審査員の論文審査報告の内容を審議し、「博士の学位」授与の可否を判定します。